

かぼちゃ「ニューなかやま」の育成

1. 試験のねらい

栃木県在来系統「中山かぼちゃ」は、紡錘形の果形をしており、果肉が粉質でホクホクした食感を有し、食味が極めて良いのが特徴である。しかし、着果節位が高く着果数の少ないのが欠点である。そこで、「中山かぼちゃ」の果実品質を備えながら、低節位から着果する系統を選抜する。

2. 育成の経過

昭和63年に烏山町中山地区から導入した在来種をもとに、平成2年までに、低節位着果性の36系統を選抜した。その後自殖によって固定化を図り、平成9年に固定度の高い3系統を選抜した。さらに果実肥大特性、着果性、果形の揃い等により2系統に絞り、平成12年に現地適応性検定を行い、「88A-3-53-1-7-6-3-8」を選定した。平成13年3月に(仮称)「ニューなかやま」として品種登録を出願した。

3. 特性の概要

- (1) 第1雌花は、トンネル栽培では、在来系統が18.5節に着生するのに対して11.5節、露地栽培では、在来系統の21.4節に対して13.1節であり、低節位から安定して着生する(表-1)。なお、第1雌花の着果性は良好であり、第2、第3雌花も数節おきに安定して着生するが、着果の連続性はやや低い。
- (2) 雌花開花始期は、在来系統に比較してトンネル栽培で6日、露地栽培で9日早い(表-1)。
- (3) 平均一果重は1.5kg前後で、在来系統よりやや小果であるが、親蔓30節までの着果数は両作型とも多く、a当たり収量では在来系統の約2倍となる(表-1)。
- (4) 果実は在来系統の特性を具備し、果形は紡錘形で果皮は黒緑色、果肉は橙黄色、肉質は粉質で食感が優れる(表-2、図-1)。
- (5) 着果位置が株元に近く、密植栽培が可能なため、収穫果数の増加による高収量が期待できる。(図-2)

4. 栽培上の留意点

- (1) 適応作型は、トンネルおよび露地普通栽培である。
- (2) トンネル作型での雌花開花期は、訪花昆虫が少ないので、人工授粉により確実に着果させる。
- (3) 在来系統に比べて草勢がやや弱いが、肥培管理は在来系統に準じる。
- (4) 那須南農業協同組合との共同品種登録出願中である。

5. 成果の要約

栃木県在来の良食味系統「中山かぼちゃ」の特性を具備し、低節位から安定して着果する「ニューなかやま」を育成した。果形は紡錘形、果肉は粉質で食味が優れる。

(担当者 黒磯分場 矢田部健一、室井栄一、野菜研究室 土屋久子、本島俊明)
現塩谷農業振興事務所、現芳賀農業振興事務所、現土壌作物栄養研究室

表 - 1 トンネルおよび露地作型における生育及び収量 (平成12年度)

作型	系 統	蔓長 (cm)	雌花開 花始期 (月.日)	雌花着生節位			収穫果数 (個/株)	1果重 (g)	a換算 収 量 (kg)
				第 1	第 2	第 3			
トンネル	ニューなかやま	452	5.22	11.5	17.1	24.6	1.5	1,651	103
	中山かぼちゃ(在来)	511	5.28	18.5	27.8	-	0.6	2,073	52
露地	ニューなかやま	449	6. 6	13.1	22.5	27.8	1.1	1,458	67
	中山かぼちゃ(在来)	517	6.15	21.4	-	-	0.5	1,612	34

注) 試験場所：黒磯分場

トンネル栽培：3月23日播種、4月26日定植。露地栽培：4月15日播種、5月15日定植。
栽植距離：畝間600cm、株間40cm。親蔓一本仕立て。蔓長、収量は親蔓30節まで。

表 - 2 果実品質 (平成12年度)

作型	系 統	果形	果皮色	果肉色	大きさ(cm)		果形比 (よこ/たて)	食味
					たて	よこ		
トンネル	ニューなかやま	紡錘	黒緑	橙黄	16.8	15.8	0.94	良
	中山かぼちゃ(在来)	紡錘	黒緑	橙黄	19.4	17.7	0.91	良
露地	ニューなかやま	紡錘	黒緑	橙黄	15.6	15.1	0.97	良
	中山かぼちゃ(在来)	紡錘	黒緑	橙黄	16.8	16.0	0.95	良

注) 栽培概要は表 - 1 に同じ。



図 - 1 「ニューなかやま」の果実形状



図 - 2 在来系統とニューなかやまの
着果状況の比較